

# 第3回 三次市旧三江線鉄道資産検討委員会 協議概要

期 日：平成30年8月7日（火）13:00～16:40

場 所：作木山村開発センター他

## 1 開 会

## 2 現地視察（13:00～15:30）

- ・馬洗川橋梁→旧尾関山駅周辺→旧上荒瀬踏切→旧粟屋駅→  
旧香淀駅→旧伊賀和志駅→旧宇都井駅

## 3 協 議（作木山村開発センター 15:40～16:40）

### （1）意見交換

- ・資料：「第2回 三次市旧三江線鉄道資産検討委員会 協議概要」

<意見>

#### 鉄道資産の積極的活用に関する意見

##### 《観光資源としての利活用の点から》

- 島根県邑南町とともに、旧口羽駅、旧伊賀和志駅、旧宇都井駅を観光資源として活用したいという一部地域内の意見もある。
- 旧尾関山駅と江の川の両鉄橋のロケーションと、街並み整備され妖怪博物館もできる三次町に、元文化会館の前にあるSLなどの資源連動させて観光に活かしたい。
- 妖怪博物館、旧尾関山駅・駅前広場、トンネルの活用案を地区内の団体代表者で協議しているが、特にトンネルについてはよい案が出ていない状況。
- 河川鉄橋の耐用性への不安があるが、安全面等の問題がクリアできれば、良い観光資源になる可能性もある。

##### 《道路等への基盤整備への活用の点から》

- 鉄道は水害の心配の少ないところを通っている。緊急時の避難場所、避難経路として活用してはどうか。
- 作木町門田地域については、道路拡幅への活用の検討が望まれる。
- 旧粟屋駅から旧長谷駅間の県道改良を進めてほしい。
- 道路改良については、利用性の向上、交通安全対策の面から、必要な部分の活用をし、整備していくことが必要である。
- 緊急性の高いところから優先的に道路改良に取り組むべきと考える。

- 旧栗屋駅付近の道路は、むき出しの線路や段差、通行する車のスピードなど、とても危険な箇所がある。通学路の危険箇所は、安全な状態にしていく必要がある。
- 道路改良が一番急ぐ課題ではないか。生活の保障、交通のための活用が最も必要ではないか。
- 旧尾関山駅の駅舎も含め、旧三江線の資産ですぐ活用できる部分というのは難しい状況であり、周辺との利便性を含め、道路拡幅に活用する方向が良い。

#### 《その他（草刈り等、維持管理のため）の観点から》

- 現在、JR跡地の草刈りを行っている実態もあり、更地にして草刈りしやすい状態にしてほしい。
- 作木旧伊賀和志駅周辺については、積極的に活用したいという島根県邑南町側が全て管理するのであれば、譲渡の検討を進めてもよいのではないかと。
- JR所有のままでは、活用策もなく撤去又は放置された状態となり、「負の遺産」となってしまふこととなる。可能な限り譲渡を受け、市と地域とで管理していく検討が必要である。
- 集落の中を通る部分だけは、地域で除草等管理するために、譲渡を受けたい。（JRが管理してくれるのであれば、譲渡を受けなくても良い。）

#### 鉄道資産の活用に対して不安・慎重の意見

- 作木町12地区のうち、5地区から回答があり、その大半が「譲渡を受けるべきでない」という意見だった。  
また、7月豪雨の際、JR職員による鉄道敷きの安全確認の状況・維持管理を目の当たりにし、譲渡を受けた場合、この業務を市や地域で引き継いで行うことは不可能であり、「子や孫に同様の維持管理をさせていくのか」という意見が出された。
- 安全性・維持管理面から、鉄橋は譲渡を受けない方が良い。
- JRの鉄道資産の譲渡を受け活かすのではなく、現在のSLの設置場所を展示場として整備し、それを妖怪博物館の一角とするなどの方法を検討してはどうか。
- 次世代に、マイナスとならないことを考えなければならない。河川橋梁、線路等三江線のない風景も、川に囲まれた三次の中で魅力的ではないか。
- 次世代に残すには、後年度、多方面で支障が多いという意見が多数である。
- 地区内の各団体の方に集ってもらい協議した中で、国土交通省の橋梁の説明を聞き、その後、豪雨災害もあったことから、危険な橋梁は撤去してほしいという意見が主であった。

#### (2) 次回第4回検討委員会の開催日について

※9月中旬で開催（日程は、別途通知）。

3 その他

4 閉 会